



大本山総持寺祖院の伽藍

横浜善光寺留学
僧育英会理事

東 隆 眞

曹洞宗 大本山・諸嶽山総持寺（神奈川県横浜

市鶴見区鶴見二一一一）の旧址には、その門

頭に「大本山総持寺祖院」とした大石柱（新

潟県産赤御影石。岩本勝俊禅師筆。昭和四六年

造建）が立てられている（石川県鳳至郡門前町）。

いまからおよそ六七二年まえの元亨元年（一

三二二）五月のなかば、のちに曹洞宗の太祖と

仰がれる瑩山禅師は、密教系の教院、諸岳観音

堂を住持・定賢権律師から譲与された。諸岳観

音堂は諸岳比古神社（羽咋郡の二所宮にある）

の別当であったといい、そもそものは奈良時代、

行基菩薩の創建にかかわる古刹と伝えられる。

この諸岳観音堂がすなわち諸嶽山総持寺の前身

である。瑩山禅師は、この教院を革めて禅院と

なし、みずから開山第一祖となった。

爾来およそ六〇〇有余年、諸嶽山総持寺は、

日本曹洞宗教団発展の拠点として大いに盛えた

のであるが、明治三一年（一八九八）四月一三

日の夜、不慮の火災によって一山の諸堂宇の大

半を失い、明治四四年（一九一一）一月、新

天地を現在の横浜鶴見が丘に求めて移転したの

であった。その後、能登門前の旧址も見事に復

興して、前述のごとく「大本山総持寺祖院」とよんで、近年は、その面目をいよいよ發揮している。監院丹羽徹象老師は、前監院故鷲見透玄老師の後をうけて平成四年六月一日に就任されたが、さきごろ横浜善光寺留学僧育英会の顧問にも就任された。八〇有余歳のご高齢であるが、若い雲水僧たちと起居をともにして太祖大師の祖廟に奉仕されている。まことに近来まれにみる高德の老師である。

ここで、簡単に、祖院の主な伽藍の要点についてご紹介してみよう。

祖院の主な伽藍といえば、山門、仏殿、法堂、庫院、浴室、僧堂、東司のいわゆる七堂伽藍を指すのはいうまでもないが、このほかに、伝燈院、慈雲閣、そして三松閣、経蔵、鐘樓、放光堂、待鳳館、紫雲台などがあげられよう。

このうち、慈雲閣、大祖堂、伝燈院、山門、経蔵をとりあげてみたい。

慈雲閣は、大祖堂の左側の奥まった高台にある。諸岳観音堂がこの堂で、火災をまぬがれた祖院最古の建造物という。本尊は行基菩薩の作という僧形の観世音菩薩。総持寺の伽藍の原点がここである。

大祖堂は法堂のこと。太祖堂と書いてある本があるが、太祖堂ではない、大祖堂である。一般の寺院の本堂にあたる。

内陣の正面には瑩山禪師をおまつりする。左右に高祖道元禪師と二祖峨山韶領禪師および五院開基をおまつりする。また、堂内の左側には、本山守護三宝大荒神と定賢権律師をおまつりする。よそのお寺では例のない様式である。

総けやき造り。三二・七三メートル四方の入母屋造り。明治四三年（一九一〇）九月再建。正面の欄間にかかげられている樺材の透彫り一四枚は、瑩山禪師の一代記をあらわしたものの。

伝燈院は、開祖瑩山禪師の靈廟である。元祿

六年（一六九三）の再建。横浜鶴見の総持寺にも伝燈院がある。能登の永光寺にも伝燈院がある。すなわち開山堂のことである。

山門は、昭和七年（一九三二）九月に再建。

山門の楼上には僧形の地藏菩薩と観音菩薩（この二菩薩を放光菩薩とよぶ）をはじめ一六羅漢、五〇〇羅漢がおまつりしてある。楼上の正面の大扁額（およそ畳一枚分の大きさ）「諸嶽山」の大字は加賀前田利為の筆跡である。

総けやき造り。瓦葺き。楼門二階建て。間口およそ二〇メートル、奥行きおよそ一四・四メートル、高さ一七、四〇メートルという豪壮華麗な大山門である。この大山門が再建された原動力には、山崎心英という尼僧の辛苦が加わっているのである。

経蔵は、一切経を納める八角宝形づくりの輪蔵で回転するようになっていた。寛保三年（一七四三）、加賀前田家六代藩主吉徳の寄進。石川

県重要文化財指定。屋根の勾配が実に美しい曲線をえがいている。

なお、境内に、芳春院というお寺がある。加賀前田利家の奥方（法号・芳春院殿花顔宗富大禅定尼）の院号をとった前田家ゆかりの寺である。私は、現任職飯田徹宗老師（祖院副監院）には御高誼をいただいている。先代の渡辺頼応は、私の受業師、法幢師であったので、学生時代は、毎年、芳春院へ帰省した。かつて名布教師とうたわれた石田義道老師が芳春院の後任として、かの沢木興道老師を指名した。だから、世間では、沢木老師は、「宿なし興道」とよばれているが、必ずしもそういうわけではないのである。このことを知る人はまれであらう。

（駒沢女子大学副学長。文博）

主要参考文献 井上清司、桜井秀雄『総持寺』曹洞宗宗務庁） 佃和雄『能登 総持寺』（北国出版社）ほか